

## ちびキャラトーク (パターンC)



ちびキャラトークのファイター3：モイコ/ファイター4：ハルカラ/メイジ3：イクラクン/プリンセス4：モモメノのトーク詳細。

### ▶ 1日目

「あ、はじめまして！  
ボクの名前は 。>  
カザンの街ははじめて？  
ボクもなんだよ、新参者同士、よろしくね！」 ( )

### ▶ 2日目

「ボクは各地を転々と旅しながら  
魔法と竜の研究をしているんだ。>  
キミは旅行は好きかい？>」  
YES  
「旅行は良いよね！  
様々な出会いがあるし  
何よりのんびりとできるからね！>」 ( )  
NO  
「そうかぁ...  
ゆっくりと歩きながら  
色々なところに行くのは楽しいよ？>」

### ▶ 3日目

「やあ、また会ったね。  
元気にしてたかい？>  
ボクはまだこの街を  
うろうろとしながら  
魔法の研究を続けるつもり。  
また会うかもね。>」 ( )

### ▶ 4日目

「それにしても、みんなは  
血気盛んだよね。  
喜び勇んで竜退治に向かっていく...>

みんなもっとのんびりと  
ハントマン生活を送れば良いと  
ボクは思うんだけどなあ。>」( )

▶ 5日目

「ボクに魔法を教えてくれた  
お師匠さんがこの街にいるって聞いて  
やって来たんだよね。>  
けど見当たらないんだ...  
どこに行ったんだろう...  
一緒に探してくれるかい?>」( )

▶ 6日目

「こんにちは。  
お師匠さんがまだつかまらなくてね...  
宿屋にもいないんだ。>  
この街は広いから一人じゃ探しきれなくて。  
申し訳ないんだけど、  
ボクと一緒に探してくれないかい?>」

YES

「ありがとう！  
背が高くて  
白くて長い髭を生やしているのが  
お師匠さんだよ!>」( )

NO

「変な頼みごとしちゃったね、ボク。  
ごめんね。>」

▶ 7日目

「この前はどうもありがとう。  
結局お師匠さんは見つからなかったけど...>  
いったい  
どこに行っちゃったんだろう?>」( )

▶ 8日目

「街の噂では...  
お師匠さんが竜を滅ぼす呪文を  
探し当てたらしいんだ...>  
そんな魔法があったら...  
この世界を救えるかもね...>」( )

▶ 9日目

「この前の噂が  
気になってるんだ。  
竜を滅ぼす魔法...>  
確かにそんなものがあれば、  
ハントマンとして名を残せるかも知れない  
けどそんな物騒な呪文、  
いらないけどね...>」( )

▶ 10日目

「先日、同じ魔法学校で  
勉強していたヤツと  
ばったりと会ったんだ。>  
そいつが言うには  
先生はもう、この街を出て行ったらしい、  
すれ違っちゃったな。>」( )

▶ 11日目

「先生はもういないけど...  
この街は心地が良いから  
もう少し滞在してみようと思う。>  
それにしてもなぜだろうか？  
周りのハントマンのボクを見る目に  
敵意を感じるんだけど...。>」( )

▶ 12日目

「さっき、あるギルドが  
血相を変えて、ボクに聞いてきたんだ。  
「お前の師匠に教わった  
竜を滅ぼす魔法を教えろ！」って。>  
そんな恐ろしい魔法...  
知ってても教えるものか...。>」( )

▶ 13日目

「今日もまた、違うハントマンから  
「竜を滅ぼす魔法を  
独り占めするつもりか！」って  
すごまれたよ...。>  
...キミも  
そんな魔法があったら  
知りたいかい?>」  
YES  
「そうか...  
キミもやっぱりハントマンなんだね。>」  
NO

「へえ...  
キミはハントマンにしては珍しいね。」>」 ( )

▶ 14日目

「お師匠さんは本当に  
そんな恐ろしい魔法を  
手に入れたのだろうか...>  
確かに優秀な  
メイジだったけれども...>」 ( )

▶ 15日目

「確かに竜は恐ろしい。  
ボクの両親も...  
竜に...>  
ボクも竜を滅ぼしたい。  
けれども、それよりも  
良い方法があるんじゃないか...  
よく、お師匠さんもそう言った。」>」 ( )

▶ 16日目

「宿に先生からの手紙が届いたんだ...。  
「この手紙を読んでいる時には  
私はもう、この世にはいないだろう。」>  
「私が研究していた魔法に関して  
君に受け継ぎたい。  
詳しくは大統領に聞いてくれ」  
ボク...明日、王宮に行ってくるよ。」>」 ( )

▶ 17日目

「大統領に会いに行こうと思ったんだけど...  
怖いんだ。  
お師匠さんが邪悪な魔法に  
手を染めていたんじゃないか...って>  
もし...  
よかったら一緒に  
王宮に行ってくれないか？」  
YES  
「ありがとう！  
少し勇気が出たよ!>」 ( )  
NO  
「そうかぁ...  
じゃあ...勇気を出して  
一人で言ってくるよ。」>」

▶ 18日目

「この前はありがとう。  
大統領に話を聞くことができたよ。  
お師匠さんは...  
竜を滅ぼす魔法じゃなく...>  
竜の心を読むことが出来る  
魔法を研究していたんだ。  
お師匠さんが命を賭けて研究していた  
魔法...>」( )

▶ 19日目

「あの後、大統領に呼ばれてね。  
ボクを「竜の心を読む魔法」  
研究ギルドのリーダーに任命するって。  
普通は竜を倒すためのギルドなのにね。>  
お師匠さんが探していた魔法...  
探してみようと思うんだ。  
ボクもついに...  
ギルドを結成したんだ>」( )

▶ 20日目

「キミは...  
「竜と意思を交わして、  
平和的に世界を救いたい」>  
なーんて言ってるボクを...  
変だと思うかい?>」  
YES  
「ははははは。  
そりゃ普通そう思うよね。>」  
NO  
「そうか...  
そう言ってくれて  
少し、気が楽になったよ。」( )

▶ 21日目

「どうやら、遠くの地。  
東の果てにある国に  
その魔法のヒントがあるらしいんだ。>  
そこまで...  
無事にたどりつけるかな...>」( )

▶ 22日目

「ようやく、メンバーが3人見つかったんだ！  
これで冒険に出れるよ！  
おもしろいやつらばかりだね。  
その中の一人がおもしろくてさ。>  
「竜と意思疎通を図って  
人間以外に、彼らの口にあうものを  
料理して出してやるんだ！」  
だってさ。>」（ハート）

▶ 23日目

「ねえ、  
キミ...。>  
いや...  
なんでもない。  
忘れて...。>」（ハート）

▶ 24日目

「東の果ての国に...行くんだ。  
旅行好きのボクもちょっと不安。  
ま、ボクは地理感覚すごいから  
絶対に迷わないけどね！>  
...。  
あのさ...  
明日、会えない、かな...  
渡したいモノがあるんだ...>」  
YES  
「...ありがとう。  
約束だよ。  
まってるから。>」（ハート）  
NO  
「そう...か  
残念だな...。>」

▶ 25日目

「来てくれたんだね...  
よかった...  
ボクの大事なモノ  
受け取ってほしいんだ>  
絶対に...  
絶対に忘れないでね。>」  
(パスワード表示)  
「メモ、してくれた？>」  
YES (ハートいっぱい)  
「ありがとう...>  
キミのこと  
ボク、絶対忘れない。>

絶対に...絶対に...  
生きて帰ってくるから...  
そのときは...>」

NO

パスワード表示画面に戻る。